

研究課題名：緩和医療に携わる医療従事者の育成に関する研究

課題番号：H25-がん臨床-一般-001

研究代表者：神戸大学大学院医学研究科内科系講座先端緩和医療学分野 特命教授 木澤義之

## 1. 本年度の研究成果

第2期がん診療推進基本計画に示されているように、診断時から、質の高い緩和ケアの提供を実施するためには、地域がん診療連携拠点病院等における緩和ケアチームの活発な活動が必須である。しかしながら、2013年4月現在397施設が指定されているがん診療拠点病院の緩和ケアチームの活動は十分とは言えず、それぞれの活動にも格差がみられ、その理由の一つとして、専門的緩和ケアを提供できる人材の確保が難しいことが推定されている。実際に平成20年度の医療水準調査では、緩和ケアチームの年間依頼件数は73件±133件（平均±標準偏差）であり、63%のチームにおいて専従の医師は配置されておらず、31%のチームにおいて、平日日中の診療依頼に対して対応することが困難とされている（Nakazawa Y, et al. JJC0 2012）。また、平成24年11月現在日本緩和医療学会緩和医療専門医は39名であり、今後急速な増加を見込むことは困難である。このように人的資源が限られた中で、どのように緩和ケアチームの診療の質を向上させ、活動を活性化するかは大きな課題である。本研究班の目的は、わが国の緩和ケアの均てん化に資するため、全国のがん診療拠点病院等の緩和ケアチームが、限られた資源の中で効果的に活動するための運用モデルを作成することである。加えて、緩和ケアチームを構成する医療従事者、ならびに緩和ケアチームと協働して基本的な緩和ケアを実践するがん診療に携わる医師、看護師、メディカルスタッフ（リハビリスタッフ、心理療法士、薬剤師等）の教育方法についても検討を行った。

### （1）緩和ケアチームが、限られた資源の中で効果的に活動するための運用モデルの作成

平成24年度のがん診療拠点病院における緩和ケアチームの診療実績ならびに人員配置調査の結果から、緩和ケアチームに専従の医師がおらず、かつ緩和ケアチームの年間コンサルテーション数が150件を上回る病院を選定し、該当するすべての病院から緩和ケアチームの運用モデルを収集中である（研究実施中）。運用モデルの内容としては以下のものを収集した；職種の配置（医師、看護師、薬剤師、医療ソーシャルワーカー、リハビリスタッフ）、各職種の役割、専従看護師の役割と配置場所、緩和ケア外来の活動内容、院内での組織上の位置づけ、コンサルテーション内容、活動時間など。あわせて、前記した緩和ケアチームの専任医師並びに専従看護師を対象として、『緩和ケアチームの活動を活性化するために行っている工夫とは』をテーマとしたフォーカスグループインタビューを平成26年1月に実施し、その内容を分析する予定である。以上の結果を統合して、限られた人的資源の中で緩和ケアチームが効果的に活動できるようになるための運用モデル・マニュアル（案）を作成する。

### （2）緩和ケアチームを構成する医療従事者の教育方法に関する研究

緩和ケアチームの診療の質を高めるために、前年度までの実績をもとに、国立がん研究センターがん対策情報センターと協働して、全国のがん診療拠点病院等の緩和ケアチームを対象として、緩和ケアチーム研修会を開催し、その教育効果を信頼性妥当性が検証された『緩和ケアチームの活動の評価尺度』を用いて評価した。また、緩和ケアチームを構成する医師・メディカルスタッフの質の向上のために、前年度までに実施した実態調査等をもとに、専門家会議を開催し、緩和ケアチームを構成する薬剤師、緩和ケアチームを構成する心理士の活動の手引き

を作成し、全国のがん診療拠点病院等に配布した。

(3) 緩和ケアチームと協働して基本的な緩和ケアを実践するがん診療に携わる医師、看護師、メディカルスタッフの教育方法に関する研究

前年度までに実施してきた以下の3課題の研究を継続して行った。

1) 効果的ながん診療に携わる医師のための緩和ケア研修会の研修会の効果の評価研究を信頼性妥当性が検証された『PEACE-Q33』を用いて前後比較試験を行い、研修会を受講することにより、緩和ケアの知識が短期的には上昇し、その効果は少なくとも2ヶ月間持続することが明らかとなった。また、緩和ケア研修会を受講した効果を明らかにするために、緩和ケア研修会受講生に対して、『緩和ケア研修会を受けてどんな変化があったか』に関するフォーカスグループインタビューを行い、緩和ケア研修会受講が受講者にもたらす行動変容について質的に検証中である(現在研究実施中)。

2) 看護師のための緩和ケア教育プログラムである End-of-Life Nursing Education Consortium- Japan (ELNEC-J) の教育効果を、ウェイティングリストコントロールを用いたランダム化比較試験で検証した。結果は現在解析中である。

3) がん診療に携わる小児科医に対する緩和ケア教育プログラムであり、小児血液がん学会が厚生労働省の委託事業の一環として実施している小児緩和ケア研修会 Care for Life-threatening Illness in Childhood (CLIC) の教育効果の検証を行った。

(4) 緩和ケアチーム等が提供する緩和ケアの質の向上に関する研究

専門的緩和ケアの質の向上には、質の高い臨床研究の実施とその結果のフィードバックが必須であるが、緩和医療の領域では研究者の育成が十分とは言えない状況である。緩和医療の研究に関するセミナーの実施を1月12日(日)に予定しており、このセミナーの実施等を通して、緩和医療に携わる研究者の育成方法について検討を行った。

### 3. 研究成果の意義及び今後の発展性

本研究の実施により、限られた資源の中で効果的に活動するための緩和ケアチームの運用モデルに関する知見のプールが作成された。この知見のプールから、各々の施設において実施可能な工夫が緩和ケアチームで実行されることにより、全国の緩和ケアチーム等の活動がより活性化し、緩和ケアチームへのアクセスの改善、診療・ケアの質の向上が期待でき、ひいては、がん患者・家族のQOLの向上に寄与することが期待される。

また、本研究では、基本的緩和ケアの実施に必要な医師・看護師に対する緩和ケアの教育プログラムの開発を行いその知識に関する教育効果を検証してきた。今後は、研修会の効果を知識だけでなく、医療従事者の態度や行動変容に関する評価尺度を開発し、実測することにより研修会の教育評価を多角的に行うとともに、その結果に基づいてより良い研修会のプログラムを作成することが望ましい。また、現在緩和ケア推進検討会の第2次中間とりまとめに沿って、より患者の視点を取り入れたものとするために、医師に対する緩和ケア研修会のプログラムを改定中である。新しく作成されたプログラムに対応した知識・技能・態度に関する教育の評価尺度の開発も併せて進めていく必要がある。

#### 4. 倫理面への配慮

本研究は、患者家族を対象とした臨床研究ではなく、医療従事者を対象とした教育プログラムの作成・改訂およびその有効性の検証に関する研究、ならびに医療従事者に対するインタビュー研究である。調査にあたっては、対象者にあらかじめ研究内容を説明し、同意を得た上で、自記式の調査用紙を用いて調査を行った。調査は氏名や施設名が特定できぬようコード化して行い、解析した。また、得られた結果は統計学的処理に使用されるもので個人のプライバシーは厳重に守られる旨を文書にて説明した。

#### 5. 発表論文

1. Yamamoto R, Kizawa Y, Nakazawa Y, Morita T. The Palliative Care Knowledge Questionnaire for PEACE: Reliability and Validity of an Instrument To Measure Palliative Care Knowledge among Physicians. *J Palliat Med*. 2013. [Epub ahead of print]
2. Nakazawa Y, Kizawa Y, Hashizume T, Morita T, Sasahara T, Miyashita M. One-year follow up of an educational intervention for palliative care consultation teams. *Jpn J Clin Oncol*. (in press)
3. Ise Y, Morita T, Katayama S, Kizawa Y. The Activity of Palliative Care Team Pharmacists in Designated Cancer Hospitals: A Nationwide Survey in Japan. *J Pain Symptom Manage*. 2013. [Epub ahead of print]
4. Iwamitsu Y, Oba A, Hirai K, Asai M, Murakami N, Matsubara M, Kizawa Y. Troubles and hardships faced by psychologists in cancer care. *Jpn J Clin Oncol*. 2013 Mar;43(3):286-93.
5. Nakazawa K, Kizawa Y, Maeno T, Takayashiki A, Abe Y, Hamano J, Maeno T. Palliative Care Physicians' Practices and Attitudes Regarding Advance Care Planning in Palliative Care Units in Japan: A Nationwide Survey. *Am J Hosp Palliat Care*. 2013. [Epub ahead of print]
6. Kizawa Y, Morita T, Hamano J, Nagaoka H, Miyashita M, Tsuneto S. Specialized palliative care services in Japan: a nationwide survey of resources and utilization by patients with cancer. *Am J Hosp Palliat Care*. 2013 Sep;30(6):552-5.
7. Morita T, Kizawa Y. Palliative care in Japan: a review focusing on care delivery system. *Curr Opin Support Palliat Care* 7(2):207-215, 2013.
8. Shirado A, Morita T, Akazawa T, Miyashita M, Sato K, Tsuneto S, Shima Y. Both maintaining hope and preparing for death: Effects of physicians' and nurses' behaviors from bereaved family members' perspectives. *J Pain Symptom Manage* 45(5):848-858, 2013.
9. Yoshida S, Shiozaki M, Sanjo M, Morita T, Hirai K, Tsuneto S, Shima Y. Practices and evaluations of prognostic disclosure for Japanese cancer patients and their families from the family's point of view. *Palliat Support Care* 11(5):383-388, 2013.
10. 多田羅竜平. 小児緩和ケアの考え方と特徴. *がん看護* ;18:3 317-320, 2013.

11. 多田羅竜平. 小児がんの緩和ケア. 日本小児血液・がん学会雑誌, 50:3 433-441, 2013.
12. 佐藤一樹, 志真泰夫, 羽川瞳, 安部奈津子, 竹内真帆, 宮下光令. 緩和ケア病棟は10年間にどう変わったか: 施設概要と利用状況に見られる変化と平均在棟日数との関連. Palliat Care Res. (in press)

#### 6. 研究組織

①研究者名	②分担する究項目	③所属研究機関及び現在の専門 (研究実施場所)	④所属研究 機関にお ける職名
木澤義之	緩和医療に携わる医療従事者の育成に関する研究 (総括)	神戸大学大学院医学研究科、緩和医療学	特命教授
森田達也	緩和医療に携わる研究者の育成に関する研究	聖隷三方原病院緩和と支持治療科、緩和医療学	部長
佐藤哲観	緩和医療に従事する医師の育成に関する研究	弘前大学医学部附属病院、緩和ケア、ペインクリニック	講師
小川朝生	緩和医療に携わる精神腫瘍医の育成に関する研究	国立がん研究センター東病院精神腫瘍学開発部、精神腫瘍学	室長
山本亮	緩和医療に従事する医師の育成と評価に関する研究	佐久総合病院緩和ケア科、総合診療・緩和ケア	部長
永山淳	緩和医療に携わる小児科医の育成に関する研究	国家公務員共済組合連合会浜の町病院緩和医療科、緩和医療学	医長
多田羅竜平	小児科領域における緩和医療の教育、普及に関する研究	大阪市立総合医療センター緩和医療科兼小児総合診療科、緩和医療学	医長
坂下明大	緩和ケアチームの育成に関する研究	神戸大学医学部附属病院腫瘍センター、緩和ケアチーム、緩和医療学	特定助教
宮下 光令	看護師に対する教育プログラムの評価に関する研究	東北大学大学院医学系研究科保健学専攻、緩和ケア看護学	教授
笹原 朋代	看護師に対する効果的な緩和ケア教育のあり方に関する研究	筑波大学大学院人間総合科学研究科緩和ケア看護学	助教
中澤葉宇子	緩和ケアチーム育成の評価に関する研究	国立がん研究センターがん対策情報センター、緩和ケア看護学	研究員
岩満 優美	緩和医療に携わる臨床心理士の育成に関する研究	北里大学大学院医療系研究科、医療心理学	教授
伊勢 雄也	緩和医療に携わる薬剤師の育成に関する研究	日本医科大学付属病院薬剤部、緩和医療薬学	主任